

TAKEO展を振り返って

TAIZO+TAKEO展は関連イベントなどを含めて6万人の参観がありました。TAIZO展会場だけでも約1万1千人の入場でした。これもひとえに市民の皆様のご協力と、一ノ瀬泰造氏の魅力の賜物と感謝申し上げます。

このTAIZO+TAKEO展は、学校で道徳教育の一環として取り组まれました。事前学習段階の気づきや事後学習での感想などたくさんレポートの中から一部を紹介します。

●西川登小5年

友廣 千恵子

戦争中の写真があった。逃げる人たちが、泣きながら別れる人もいた。竹(木)に手をむすばれて車にひかれていた人なども見た。なぜ手をむすばれているのか分からなかった。

手紙もあった。たい造さんが家族に書いた手紙もあったし、手紙をもらっていた人が写っている写真もあった。うれしそうな顔をしていた。

世界の子どもたちが、たい造さんにメッセージをかけた布もあった。日本語じやなくて分からなかったけ

ど、多分「ありがとう」とこの気持ちがかもっていると思った。

たい造さんがとった写真の中では、うれしそうに笑っている写真もあったけど、悲しい写真もあった。たい造さんは戦争の悲しいところや感動するところをとって、戦争はこんなに悲しいんだよと伝えているのかなと思った。

たくさん写真があったけど、やっぱりうれしそうに顔をしているのが一番いいなと思った。たい造さんは、いろんな国へ行って戦争中の写真や逃げていた写真を、自分があぶないめにあつて

まで、日本の人たちが他の国の人たちに、伝えたかったのかなと思った。

今はもう亡くなられていないんだと思うと、悲しいなと思う。でも、たい造さんは自分で決めていったんだし、これだけ感動する写真をとっているから、くいは残っていないと思います。

こんな写真をいろんな国に見せて、平和な世界にしてほしいです。戦争がなくなつてほしいです。

●東川登小3年

森 悠統

今日、一ノ瀬たいぞう写真展を見に行きました。たいぞうさんのことは、少ししか分からなかったのを楽しみでした。まずエポカルに行きました。たいぞうさんが実さいに使っていたヘルメットがありました。地雷を踏んだ時の血の跡がヘルメットについていました。

ろう門の所に行つてたいぞうさんの文、写真があり

ました。びょういんきらいと言って、せん場がいいと言つて、行つたそうです。なぜたいぞうさんが、せん場がいいかと言うのはなぜです。たぶん、「せんそうがどんなにおそろしいのか」を写真で伝えたかったと思います。

●武内小3年

井上 真優

TAIZO展に行きました。写真とか帽子とカメラとかかざつてありました。あまり見ていて、楽しくはありませんでした。少し悲しくなるような写真がたくさんありました。そうやって見ていたら、パソコンとかブーツもありました。

写真には、死んでいる人とかがあつて、いやだなあと少しだけ思いました。こうやって命を落としている人がいるのでせんそうとかがなくなつてほしいです。

御船ヶ丘小5年 外尾 匠

アンコールワットをただ撮りたいと思つていたらだと思つていたけど、その願には色々なことがこめられていたんだと感じました。勉強する前は、ただ写真を撮りたいと思つて死んでいった人だと思つていてけど、泰造さんは、すごく多くの写真を撮つて、いろんな国を回つてからカンボジアに挑戦したんだなと思いました。

(事前学習での気づきです)

●西川登小4年

山本 諒

ぼくはせんそうの話がきになつていたけど、きょうみたしやしんはとてもかなしかったです。したいをひどくあつかつていたり、子どもなのに足をうしなつたり、みていてとてもむねがおもかったです。たいぞうさんもつらかつたとおもいます。

●若木小6年

樋渡 菜里

私が一ノ瀬泰造写真展で思ったことは、泰造さんの写真には、人が死んでいるものや、死にそうな人がうつっているものが多いことでした。泰造さんは、変わりものなのかなあと思いました。それは、メッセージの中に「ただゆきたいという理由では、だめなのでしようか」という一言があつたからでした。何故、生きて帰れるか分からないような戦場へ自分からまきこま

●北方中1年

山口 杏華

私はいノ瀬展を見て、たくさんの子どものことに、小さい子どもなのに、親をなくして泣いている子どもや、足をなくしている子ども、大人、たくさんの人たちが苦しんでいるのが、写真から伝わってきました。なかでも、一番印象深かつたのが、小さな子どもが

した。でも、もしかしたらせつかく生まれてきたんだから、意味のある人生にしようと思つたのかもしれないと感じました。

私はTAIZO展を見て、たくさんの子どものことに、小さい子どもなのに、親をなくして泣いている子どもや、足をなくしている子ども、大人、たくさんの人たちが苦しんでいるのが、写真から伝わってきました。なかでも、一番印象深かつたのが、小さな子どもが

●武雄北中1年

中島 佐和子

泰造さんは戦場カメラマンと勉強をしていたので、戦争の悲しい場面の写真が多いのかな？と思つていたけれど、戦争があつていない中でひつしに生きている子供達の写真など、本当に見ているだけで気持ちが伝わつてきて、私も悲しくなりました。

●山内中3年

吉永 采香

血まみれになりながら死んでいる人、厳しい顔をしてうつつている人……その中で何枚か子どもたちの笑顔でいる写真がうつつされていました。それを見て、こんなにくるしくて、つらい世の中が自分の目の前にあつたとしても笑顔という物だけは忘れずに、そして

失つてない人だと思つた。笑顔は幸せという感情を表すけど、この場所はけして幸せじゃない。むしろ笑顔なんて一つもでない。そんな写真を撮つていたのではないかなと思つています。

一ノ瀬さんが残していた服、帽子、カメラ……そして写真。それを目にした私たちは、それを見つてきた私たちは、それを見る前とはちがつて少し気持ちの面では成長できたと思つています。この世界にはくしくしても必死に笑顔だけ失わず、前向きに生きていく人たちがいる……。私たちはその人たちと同じくらいに大きく成長していきたいです。

映画「TAIZO」を観に来た人のコメント

大阪府 大森 久美子



今年のカンボジア旅行で、一ノ瀬泰造さんの存在に出逢いました。本や写真集を通し、「自分に正直に生き」「自分を知る事が出来た」事を感じ、感動しました。

今回、写真展と私が探し求めていた「TAIZO」が上映されるという事をHPで拝見し、武雄を訪れました。写真展では彼の暖かい目を感じ、「TAIZO」では私が感じていた事を再確認しました。素晴らしい出逢いがありました。



TAIZO展表彰式
12月1日写真展子供の部の表彰を行いました。
281点の応募作品の中から御船が丘小4年、西崎大輝君がグランプリに輝きました。